

傘寿の著者は、長らく日本古代史・宮廷文化史・皇室制度史などに関する研究を続けながら、神道思想・道徳教育や人物史・郷土史などの講究にも努めてきた。その大半は専門書・教養書など書籍の形で刊行してきたが、他にも多様な雑誌などに掲載された論文や各地で講演した記録などが少くない。それらを集成して、ここに廉価な①DVD-ROMと②コピー略製本の形で出版する。

傘寿記念の『未刊論考デジタル集成』

昭和十六年（一九四一）十二月十二日生まれの私は、母のおかげで元気に育ち、好きな読書・勉学と研究・教育を続けてきました。しかしながら、数えて傘寿の今年に入ってから、新型コロナ禍のため在宅自粛を余儀なくされ、歳の近い知友の訃報も相次ぎ、諸行無常を痛感しています。

そこで、気の向くままに若いころからの愛読書を何冊も読み返しました。そのうち、明治二十七年（一八九四）内村鑑三（33歳）が、京都で英文により著した『日本及び日本人』（のち『代表的日本人』と、箱根で青年たちに話した『後世への最大遺物』には、あらためて考えさせられました。

後著は内村が父上から学んだ頼山陽の漢詩にヒントをえて、我々が後世に「遺すことのできる最大遺物」は「勇ましい高尚なる生涯である」という。そして具体的に前著でも特筆した二宮尊徳（金次郎）の逸話をわかりやすく紹介しています。

もちろん、私は八十近い歩みを振り返っても、後世に「遺すことのできる」ような「勇ましい高尚なる生涯」を送ってきたわけではありません。しかし、六十年前に大学へ進んだころから、折々に随想や論文などを書き続けてきたことは確かです。

その大半は五十冊余の専門書・教養書などとし

て刊行することができました。しかも、それ以外に雑誌に掲載された論文・評論や講演した記録などが少なからずあります。

よって、それらのコピーを整理分類し、デジタルデータ化して廉価で出版することを考えました。このような編集作業は、私一人で出来ませんが、幸い多様な実務を身近な研究助手が担当し、各旧稿の校正を長年の学友（別記九名）が分担してくださることに成り、衷心感謝にたえません。

そこで、これを『所功の未刊論考デジタル集成』と名づけ、個人的には傘寿記念として出版します。即ち未刊論考を全十巻十八冊（最後の一冊は補巻）に分類しデジタルデータ化した上で、①DVD-ROMおよび②コピー略製本として、新年春（令和三年四月）から可能な限り廉価で出版します。

これが三年間で順調に完成しましたら、既刊書も可能な限りデジタルデータ化して同様に出版したいと夢見ています。この両方が研究と教育に主力を注いできた私の人生記録であり、「後世への遺物」と受けとめて頂けたら幸いに存じます。

もし関心のある方々が、どの部分でも目を通され、活用してくださるならばと念じております。

令和二年（二〇二〇）十二月二十三日